

ローケツ染



ローケツ染めは防染糊の代わりに蠟で防染して模様を表す染めの技法です。

蠟は糊よりも防染力が弱いので、その特色を生かして染めます。微妙な濃淡とひび割れ効果が雅味となり、独特の魅力を放つ技法です。ローケツ染めの起源は、日本では奈良時代に溯ります。発祥の地はインドで、中国を經由して日本に伝来しました。奈良時代に最盛期であったこの染めは、時代を経るうちに衰退の一途をたどり、現在行われているローケツ染めは明治時代に始められたものです。使う蠟にも様々な種類があり、作家によって配合が違います。色の仕込み方は、天気や湿度によっても左右され、巧緻な枝が要求されます。昭和時代までローケツ染めは、どちらかというと趣味の着物に用いられてきました。個性派好みの訪問着やモダンな付下に多く見られ、式服は少数でした。近年では、全盛期は過ぎたものの、微妙な味わいを表現しようとする作家の活躍が注目されています。

山野草

登山やトレッキングの楽しみのひとつに、山野草の観賞を目的とする人も大勢います。以前は山草と呼ばれていたようですが、実は山野草を指すはっきりとした定義は存在していないと言われているようです。しかし、一応の目安としての決まりごとはあるようなので少し紹介すると、
『平野部から高山に至る野外に自生している、ある程度の耐寒性を持ち合わせた、観賞価値のある草や低木』とされているようです。
落ちつきのある山野草は日本人が持ち合わせている『あじさび』や『備前』といった感情によく合うといわれています。
趣があり日本人の心に響くものがあるからかもしれませんね。

春の山野草



雪割草

雪を割るようにして咲き出すのが名前の由来です。



カタクリ

昔は球根から片栗粉を採っていました。



堇

花の形が大工道具の墨入れに似ていることで「すみ入れ」から「すみれ」と呼ばれるようになったそうです。



春蘭

春に咲く蘭なので春蘭と呼ばれているそうです。

染の三纈 (さんけち)

臈纈 (ろうけち) ××× 蠟防染による染色技法

纈纈 (こけち) ××× 絞リ染による染色技法

夾纈 (きょうけち) ××× 板などのはさま染による染色技法

